

2. 「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」

(1) シラバス

* 科目 No.	
----------	--

科目概要記入欄

1. 開設大学	広島大学		開催方法	■対面（東広島キャンパス）	
				□オンライン（同時・録画・資料提示）	
				□その他（ ）	
	正式科目名 副題	命の尊厳を涵養する食農フィールド 科学演習		配当年次	1, 2, 3
				受入学年	
	学問分野	番号	33	名称	農学
3. 担当教員名	黒川勇三・磯部直樹・新居隆浩・妹尾あいら・鈴木直樹				
4. 単位数	2単位	5. 開講学期	前期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	令和5年 9月 5日（火）～ 令和5年 9月 8日（金）				
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」（ ） ②. 「基礎知識を必要としない科目」				
8. 募集人数	15人	9. 選考方法	受講希望者が定員を超えた場合は、受講希望理由の内容を検討した上で、低学年の学生（本演習体験を所属大学の授業に生かす可能性が高い）から選抜する。		
10. 科目内容・ 授業計画	<p>広島大学生物生産学部附属農場では、太陽の恵みを受けて育てた作物で家畜を飼い、家畜の恵みとしてミルクや肉、羊毛を生産している。「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」は、本農場とともに、畜産物や水産物を加工する大学の食品製造実験実習棟と動植物の精密実験圃場を活用して、教員と農場技術職員の協力により実施している。本演習では受講生が、草と家畜と土の循環のなかで食の源を生産して食品に加工していく過程を、講義と実習、討論を通じて学び、食と農業と環境の関わり、動物の福祉、SDGs、他の生き物の命によって生かされている人間の存在について考える機会を提供することを目的としている。</p> <p>※授業計画は新型コロナウイルス感染症の拡大状況や天候不良等により開講の中止や内容の一部変更、日程の変更等を行うことがあります。また受講希望者が5名以下の場合には開講を中止する場合があります。演習スケジュール（予定）</p> <p>9/5（火）：西条駅集合、農場へ移動しガイダンス、農場の見学と課題の説明、家畜の福祉（農場）</p> <p>9/6（水）：午前：家畜のエサやりと乳搾りを体験する。 人と動物の関係、農業生産と環境、SDGsについて考える 午後：家畜の体の仕組みを見る（生物生産学部）。 家畜の命と食について考える。体験発表会の準備をする。</p> <p>9/7（木）：午前：家畜のエサやりと乳搾り体験をする。 家畜の命を支える大地の働きを探る。 午後：家畜の命を実感する。牛の体温と心拍数測定。 牛乳の試飲とバター作りをする。 体験発表会の準備をする。</p> <p>9/8（金）：午前：体験発表会（生物生産学部講義室） 昼頃に西条駅解散</p>				

11. 試験・評価方法	受講態度、発表、受講後のレポートで評価する。フィールドを活用した演習なので農場の規則を守れない受講者は不可となる可能性があります。
12. 別途負担費用	3日目の昼食費（2000円程度）を現地で徴収します。集合場所までの旅費、演習中の宿泊費（宿泊費の一部を大学で負担する予定です）、食費は自己負担です。
13. その他特記事項	<p>●受講人数：15名程度</p> <p>本授業科目は、広島大学他学部（生物生産学部以外の学部）と他大学の非農学系学部の大学生（専門学校・高専の学生を含む）のために開講されるものです。希望者が定員を上回る場合は、低学年の学生（1,2年生：本演習の体験をその後の自大学の授業で生かす可能性の高い）から選抜します。例年、定員以上の受講希望者がありますので、一度受講が認められた方は絶対にキャンセルしないでください（受講を認められなかった希望者には大変迷惑となります）。事前に自分の予定と演習の日程を調整した上で申し込みください。</p> <p>●傷害保険：事前に学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険（財団法人日本国際教育支援協会）相当の傷害保険に加入しておいてください。</p> <p>●集合日時：令和5年9月5日（火）の13時にJR山陽本線 西条駅前（南口のロータリー）に集合してください。大学が準備したバスで農場まで送迎します。昼食は集合時間までに済ませておいてください。なお、演習最終日の9月8日（金）は昼頃にバスでJR西条駅前まで送迎します。</p> <p>●宿泊場所：東広島市内のホテル（ビジネスホテル）に宿泊していただく予定です（宿泊費の一部を大学で補助する予定です）。ホテルから農場までは毎日バスで送迎いたします。朝食、夕食は各自でとっていただきます（大学生協食堂等）。</p> <p>●持参物：医療保険証、マスク（ただし、作業中は別途作業用不織布マスクを配布します）、体温計、作業以外の時に着る動きやすい服（虫対策のため半ズボンやスカート等は不可）、帽子（サンバイザー不可）、水に濡れたり汚れたりしても構わない靴（サンダルやヒールのある靴は不可）、雨具（カッパ）、筆記用具、洗面用具、タオル、身の回り品等。作業用のつなぎ及び長靴はこちらで用意します。</p> <p>※持ち物の詳細については受講者が確定し次第、個人宛にメールで案内しますので、<u>常時連絡の取れるメールアドレスを正確に記入してください</u>。また、その際につなぎ及び長靴のサイズの確認と海外渡航歴の確認をしますので、<u>必ず返信してください</u>。メールでの連絡の際には必ず氏名と所属大学を明記してください。</p> <p>●注意事項：</p> <p>①新型コロナウイルス感染症の拡大状況、災害の発生や天候の状況（台風等）によっては開講の中止や内容の変更もあります。また受講希望者が5名以下の場合は開講を中止する場合があります。</p> <p>②<u>受講2週間前から毎朝の検温を必ず実施してください</u>。受講前日までに体調に異変（37.5℃以上または平熱から1℃以上高い場合、倦怠感、咳、息苦しさ、喉の痛み、頭痛、嗅覚・味覚異常のどれかひとつでも該当するとき）がある場合は、<u>演習の受講を取り止めていただきますので、必ず所属大学学生係、広島大学生物学系総括支援室、広島大学大学院統合生命科学研究所准教授（黒川 勇三）まで連絡してください</u>。</p> <p>③家畜伝染病（口蹄疫）の予防措置のため、<u>演習日前の2週間以内に海外渡航を予定しておられる方については受講を認めない場合がありますので、受講を申し込まれる前に問い合わせてください</u>。特に演習日前の2週間以内に口蹄疫発生地域（中国・韓国等）からの帰国を予定されている方は受講できません。帰国がこれらの期間より前であっても、海外で使用した衣服や靴を農場内に持ち込むことはできません。さらに本演習前に国内の家畜農場や家畜関連施設（食肉センターを含む）に立ち入られた方またはその予定のある方も事前に下記までご相談ください。</p> <p>④演習中は決められた場所以外への出入りはできません。演習期間中の移動は送迎バスを利用します。</p> <p>⑤<u>広島大学構内（附属農場を含む）は全面禁煙です</u>。</p> <p>●欠席・遅刻の通知方法：やむなく欠席・遅刻する場合は1週間前までに所属大学学生係および広島大学生物学系総括支援室まで必ず連絡をしてください。</p> <p>【問合せ・連絡先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島大学生物学系総括支援室 〒739-8528 東広島市鏡山1-4-4 TEL：082-424-4323 E-mail：sei-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp ・ 広島大学大学院統合生命科学研究所 准教授 黒川 勇三 〒739-0046 東広島市鏡山2-2965 TEL：082-424-7993 E-mail：yuzokuro@hiroshima-u.ac.jp

14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否

※コロナ禍の影響により、対面授業はオンライン（同時・録画・資料）へ変更になる場合があります。

(2) 実施日程・内容

「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」タイムスケジュール
【令和5年9月5日(火)～9月8日(金)】

9月5日(火)				
時刻	所要時間	内容	担当者	場所
12:30	30分間	西条駅へ移動, 受講生出迎え	黒川, TA	農場から西条駅
13:00	10分間	西条駅に集合	黒川, TA	西条駅
13:10	30分間	西条駅から大学キャンパスを經由して農場へ移動	黒川, TA	西条駅からキャンパス經由で農場
13:40	20分間	農場着 受付, 集金, トイレ休憩, 書類記入	妹尾, 鈴木, TA	農場(乳牛舎講義室)
14:00	50分間	演習ガイダンス	黒川, 妹尾, 鈴木, TA	農場(乳牛舎講義室)
14:50	10分間	休憩		農場
15:00	60分間	農場案内	黒川, TA	農場
16:00	15分間	休憩		農場
16:15	45分間	課題研究の説明	黒川, 妹尾, TA	農場(乳牛舎講義室)
17:00	15分間	出発準備	TA	農場
17:15	15分間	移動(農場～会館食堂)	TA	農場から会館食堂
17:30	40分間	夕食	TA	会館食堂
18:10	15分間	コンビニへ移動		会館食堂からコンビニ
18:25	10分間	買い出し(必要な人のみ)		コンビニ
18:35	15分間	ホテルへ移動(学生会館・山中会館)		コンビニからホテル
18:50		チェックイン 各自自習・自由時間・就寝	妹尾, 鈴木 (チェックイン対応)	ホテル

9月6日(水)

時刻	所要時間	内容	担当者	場所
7:15	15分間	農場へ移動		ホテルから農場
7:30	40分間	農場着 朝食	TA	農場(乳牛舎講義室)
8:10	30分間	着替え・休憩	TA	農場
8:40	40分間	「家畜の飼養管理と搾乳作業」(前半) I.乳搾り体験 II.乳牛への飼料給与他 III.中小家畜への飼料給与他 IV.肉牛への飼料給与他	黒川(II), 鈴木(I), 技術職員(I・III・IV), TA	農場
9:20	15分間	休憩	TA	農場
9:35	40分間	「家畜の飼養管理と搾乳作業」(後半) I.乳搾り体験 II.乳牛への飼料給与他 III.中小家畜への飼料給与他 IV.肉牛への飼料給与他	黒川(II), 鈴木(I), 技術職員(I・III・IV), TA	農場
10:15	20分間	長靴洗浄, 着替え, 休憩	TA	農場
10:35	70分間	「人と動物の関係, 農業生産と環境、SDGsに ついて考える」	黒川, 妹尾, TA	農場(乳牛舎講義室) ・農場
11:45	15分間	休憩	TA	農場
12:00	50分間	昼食(弁当)		農場(乳牛舎講義室)
12:50	15分間	出発準備		農場
13:05	15分間	生物生産学部へ移動	TA	農場から 生物生産学部C307
13:20	20分間	着替え	TA	生物生産学部C307
13:40	90分間	「家畜(ニワトリ)の体の仕組みを見る」	磯部, 新居, TA	生物生産学部C307
15:10	20分間	着替え 出発準備	TA	生物生産学部C307
15:30	15分間	農場へ移動	TA	生物生産学部C307 から農場
15:45	15分間	休憩		農場
16:00	60分間	グループディスカッション①	黒川, 妹尾, 鈴木, TA	農場(乳牛舎講義室)
17:00	15分間	出発準備	TA	農場
17:15	15分間	移動(農場～会館食堂)	TA	農場から会館食堂
17:30	40分間	夕食	TA	会館食堂
18:10	15分間	コンビニへ移動		会館食堂からコンビニ
18:25	10分間	買い出し(必要な人のみ)		コンビニ
18:35	15分間	ホテルへ移動(学生会館・山中会館)		コンビニからホテル
18:50		各自自習・自由時間・就寝		ホテル

9月7日(木)

時刻	所要時間	内容	担当者	場所
7:15	15分間	農場へ移動		ホテルから農場
7:30	40分間	農場着 朝食	TA	農場(乳牛舎講義室)
8:10	30分間	着替え・休憩	TA	農場
8:40	40分間	「家畜の飼養管理と搾乳作業」(前半) I.乳搾り体験 II.乳牛への飼料給与他 III.中小家畜への飼料給与他 IV.肉牛への飼料給与他	鈴木・黒川(Ⅱ), 技術職員(Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ), TA	農場
9:20	15分間	休憩	TA	農場
9:35	40分間	「家畜の飼養管理と搾乳作業」(後半) I.乳搾り体験 II.乳牛への飼料給与他 III.中小家畜への飼料給与他 IV.肉牛への飼料給与他	鈴木・黒川(Ⅱ), 技術職員(Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ), TA	農場
10:15	20分間	長靴洗浄, 着替え, 休憩	TA	農場
10:35	70分間	「家畜の生命を支える大地の働きを 探る」	黒川, TA	農場(乳牛舎講義室)・ 農場
11:45	15分間	長靴洗浄, 着替え, 休憩	TA	農場
12:00	10分間	記念撮影	黒川, 妹尾, 鈴木, TA	農場(芝生)
12:10	50分間	昼食(弁当)		農場 (乳牛舎講義室)
13:00	10分間	着替え	TA	農場
13:10	70分間	「動物の命を実感する」牛の体温と心拍数測 定	鈴木, TA	農場(榨場)
14:20	40分間	着替え, 長靴洗浄, 休憩	妹尾, TA	農場
15:00	70分間	「牛乳の試飲とバター作り」	妹尾, TA	農場(乳牛舎講義室)・ 農場
16:10	10分間	休憩	TA	農場
16:20	60分間	グループディスカッション②	黒川, 妹尾, 鈴木, TA	農場(乳牛舎講義室)
17:20	10分間	出発準備	TA	農場
17:30	15分間	移動(農場～会館食堂)	TA	農場から会館食堂
17:45	40分間	夕食	TA	会館食堂
18:25	15分間	コンビニへ移動		会館食堂からコンビニ
18:40	10分間	買い出し(必要な人のみ)		コンビニ
18:50	15分間	ホテルへ移動(学生会館・山中会館)		コンビニからホテル
19:05		各自自習・自由時間・就寝		ホテル

9月8日(金)

時刻	所要時間	内容	担当者	場所
7:30	15分間	ロビー集合:チェックアウト	妹尾, 鈴木 (チェックアウト対応)	ホテル
7:45	15分間	生物生産学部へ移動		ホテルから 生物生産学部C206
8:00	40分間	朝食	TA	生物生産学部C206
8:40	10分間	休憩		生物生産学部C206
8:50	10分間	課題発表会の説明	黒川, 妹尾, TA	生物生産学部C206
9:00	60分間	課題発表準備	黒川, 妹尾, 鈴木 他, TA	生物生産学部C206
10:00	15分間	休憩		生物生産学部C206
10:15	80分間	課題発表会(発表10分, 質疑応答10分×4)	黒川, 妹尾, 鈴木 他, TA	生物生産学部C206
11:35	30分間	アンケート	黒川, 妹尾, 鈴木 他, TA	生物生産学部C206
12:05	10分間	修了証書授与式	黒川, 妹尾, 鈴木, TA	生物生産学部C206
12:15	20分間	西条駅へ移動	黒川, TA	大学会館前から 西条駅
12:35		解散		西条駅

(3) 受講者・参加大学

命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習(令和5年9月5日(火)～9月8日(金))
受講者名簿(計12名)

No.	大学名	所属学部	所属学科	学年
1	福山大学	生命工学部	生物工学科	2
2	福山大学	生命工学部	生物工学科	2
3	福山大学	生命工学部	生物工学科	2
4	福山大学	生命工学部	海洋生物学科	2
5	福山大学	生命工学部	海洋生物学科	2
6	福山大学	生命工学部	海洋生物学科	2
7	広島修道大学	国際コミュニティ学部	国際政治学科	2
8	広島修道大学	人間環境学部	人間環境学科	2
9	広島文教大学	教育学部	教育学科	1
10	広島市立大学	国際学部	国際学科	1
11	広島大学	総合科学部	総合科学科	2
12	島根県立大学	総合政策学部	総合政策学科	4

(4) 受講生の負担金額

・受講生 1名当たり、4,300円

(内訳)

事項	単価(円)	数量・単位	3泊4日(円)
ホテル宿泊料	732	1人	732
食事代(朝)	756	3食	2,268
食事代(昼)	650	2食	1,300
計			4,300

※ホテル宿泊料は大学宿泊施設利用時と同額とした

※夕食は学食を利用し、各自が実費を支払った

(5) 演習風景



乳搾り体験



ニワトリの解剖



手作りバターを試食



課題発表会

(6) 成績評価

教育ネットワーク中国による単位互換制度に基づく「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」に係る成績評価を以下のとおり行った。

(1) 成績評価方法

- ・受講態度，発表，レポートで評価する。また，受講者の安全と健康にかかわる演習中の規則を守れない受講者は不可とする。

(2) 成績評価基準

- ・秀 (S)，優 (A)，良 (B)，可 (C) 及び不可 (D) の5段階評価とする。
- ・5段階評価の基準は，100点満点で採点し，90点以上を「秀 (S)」，80～89点を「優 (A)」，70～79点を「良 (B)」，60～69点を「可 (C)」とし，60点未満は「不可 (D)」とする。

(7) 受講生によるアンケート評価

◎「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」アンケート集計結果

受講者数：計 12 名

I 本取組に関する共通の質問

I-1【属性について】

I-1-1) 所属大学・学部（コース等）

- 福山大学 生命工学部 生物工学科：3名
- 福山大学 生命工学部 海洋生物学科：3名
- 広島修道大学 国際コミュニティ学部 国際政治学科：1名
- 広島修道大学 人間環境学部 人間環境学科：1名
- 広島文教大学 教育学部 教育学科：1名
- 広島市立大学 国際学部 国際学科：1名
- 広島大学 総合科学部 総合科学科：1名
- 島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科：1名

I-1-2) 学年

- 1年次生：2名 (16.7%)
- 2年次生：9名 (75.0%)
- 3年次生：該当者なし
- 4年次生：1名 (8.3%)

I-1-3) この演習以外に、これまでにフィールドを利用した授業を受けた経験があるか

ある：8名 (66.7%)、ない：4名 (33.3%)

I-1-4) それほどの時期か(複数可)

- 大学：5名
- 中学校：2名
- 高校：該当者なし
- 小学校：2名

I-2【この授業に参加するにあたっての情報入手について】

授業のことを、何を通して知ったか(複数可)

- ガイダンス：2名
- ネット：3名
- パンフレット：該当者なし
- その他：7名
- 先輩から：該当者なし

I-3 【この授業に参加した理由について】

I-3-1) 最も強い動機は？

- 自大には無い授業科目だから：該当者なし
- 体験学習だから：3名 (25.0%)
- 単位が取得できるから：1名 (8.3%)
- 現在の志望分野に関係するから：該当者なし
- 食と農について学べるから：1名 (8.3%)
- 広い知識を得たいから：2名 (16.7%)
- 他大学のことを知りたいから：該当者なし
- 他大学の学生と交流できるから：該当者なし
- 友人が参加するから：該当者なし
- おもしろそうだから：4名 (33.3%)
- その他 (自由記述)：1名 (8.3%)

I-3-2) 二番目に強い動機は？

- : 1名 (8.3%)
- : 2名 (16.7%)
- : 3名 (25.0%)
- : 3名 (25.0%)
- : 3名 (25.0%)
- : 該当者なし

I-4 【広島大学で授業を受けた感想】

I-4-1) 今回受講したフィールド教育に類する授業は・・・

- 自大学にはない：6名 (50.0%)
- 類する科目がある：4名 (33.3%)
- わからない：2名 (16.7%)

I-4-2) 他大学の先生の授業を受講できて・・・

- とても良かった：11名 (100%)
- まあまあ良かった：該当者なし
- あまり良くなかった：該当者なし
- 全く良くなかった：該当者なし

I-5 【他大学の学生との交流等について】

I-5-1) この授業は本来定員を15名に制限しています。この定員数は・・・

- 多すぎる：1名 (8.3%)
- 丁度良い：10名 (83.3%)
- 少なすぎる：1名 (8.3%)

I-5-2) 他大学の学生と同じ授業を受けたことは・・・

- とても良かった：10名 (83.3%)
- まあまあ良かった：1名 (8.3%)
- あまり良くなかった：1名 (8.3%)
- 全く良くなかった：該当者なし

I-5-3) 他大学の学生と交流は・・・

- 活発にできた：4名 (33.3%)
- まあまあできた：5名 (41.7%)
- あまりできなかった：3名 (25.0%)
- 全くできなかった：該当者なし

I-6【演習の実施方法について】

(この授業は、4日間の集中形式で、講義、実習、発表の3部から構成されている)

I-6-1) 講義、実習、発表の組合せは、講義だけの授業よりも学習する上で・・・

- とても有効である：11名 (91.7%)
- あまり有効でない：1名 (8.3%)
- まあまあ有効である：該当者なし
- 全く有効でない：該当者なし

I-6-2) 講義、実習、発表のうち、最も面白かったものは・・・

- 講義：該当者なし
- 発表：該当者なし
- 実習：12名 (100%)

I-6-3) 4日間の演習の日数は・・・

- 長すぎる：1名 (8.3%)
- 短すぎる：1名 (8.3%)
- 丁度良い：10名 (83.3%)

I-7【参加費に関して】

I-7-1) 自分の得たものを考えると参加費は・・・

- かなり安い：8名 (66.7%)
- やや高い：該当者なし
- やや安い：2名 (16.7%)
- かなり高い：該当者なし
- 普通：2名 (16.7%)

I-7-2) 参加費(実費)から考えて、食事は・・・

- かなり満足：5名 (41.7%)
- やや不満：2名 (16.7%)
- やや満足：3名 (25.0%)
- かなり不満：該当者なし
- 普通：2名 (16.7%)

I-7-3) 参加費(実費)から考えて、宿泊施設は・・・

- かなり満足：11名 (91.7%)
- やや不満：該当者なし
- やや満足：1名 (8.3%)
- かなり不満：該当者なし
- 普通：該当者なし

I-7-4) 参加費(実費)をもっと高くしても食事と宿泊施設を良くしてほしいか

- そう思う：該当者なし
- そう思わない：11名 (91.7%)
- 未回答：1名 (8.3%)

I-8【食農フィールド科学演習全体について】

I-8-1) この演習全体の流れは・・・

- とても良かった：8名 (66.7%)
- あまり良くなかった：1名 (8.3%)
- まあまあ良かった：3名 (25.0%)
- 全く良くなかった：該当者なし

I-8-2) この演習によって、フィールド科学の幅広さや面白さを知った

- とても興味を持った：12名 (100%)
- これまでと変わらない：該当者なし
- まあまあ興味を持った：該当者なし

I-8-3) この演習を受講して食べ物と農業の関係について・・・

- とても考えるようになった：11名 (91.7%)
- これまでと変わらない：該当者なし
- まあまあ考えるようになった：1名 (8.3%)

I-8-4) この演習によって、食べ物と命の関係について・・・

- とても考えるようになった：11名 (91.7%)
- これまでと変わらない：該当者なし
- まあまあ考えるようになった：1名 (8.3%)

I-8-5) この演習によって、わが国の食料生産の自給率について・・・

- とても考えるようになった：4名 (33.3%)
- これまでと変わらない：1名 (8.3%)
- まあまあ考えるようになった：7名 (58.3%)

I-8-6) この演習によって、行動力や積極性が・・・

- とても高まった：6名 (50.0%)
- これまでと変わらない：1名 (8.3%)
- まあまあ高まった：5名 (41.7%)

I-8-7) この演習によって、これからの学習意欲が・・・

- とても高まった：10名 (83.3%)
- これまでと変わらない：該当者なし
- まあまあ高まった：2名 (16.7%)

I-8-8) 他大学の学生と交流することによって、コミュニケーションスキルが・・・

- とても高まった：2名 (16.7%)
- これまでと変わらない：6名 (50.0%)
- まあまあ高まった：4名 (33.3%)

I-8-9) グループ単位の実習によって、チームワークに対する意識が・・・

- とても高まった：5名 (41.7%)
- これまでと変わらない：3名 (25.0%)
- まあまあ高まった：4名 (33.3%)

I-8-10) グループ単位の実習によって、リーダーシップをとる力が・・・

- とても高まった：2名 (16.7%)
- これまでと変わらない：7名 (58.3%)
- まあまあ高まった：3名 (25.0%)

I-8-11) 参加する前の期待度に比べて・・・

- かなり満足：10名 (83.3%)
- やや不満：該当者なし
- やや満足：1名 (8.3%)
- かなり不満：該当者なし
- 普通：1名 (8.3%)

I-8-12) 今回の演習を受講して、今後友人や後輩に受講を・・・

- とても勧めたい：9名 (75.0%)
- あまり勧めたくない：該当者なし
- まあまあ勧めたい：3名 (25.0%)
- 全く勧めたくない：該当者なし

I-8-13) 本演習以外にも他大学の講義を受講できる機会を・・・

- とても増やしてほしい：10名 (83.3%)
- 特に増やす必要はない：該当者なし
- まあまあ増やしてほしい：2名 (16.7%)

I-8-14) 本演習で経験したことは将来の進路を選択する上で・・・

- とても参考になった：7名 (58.3%)
- あまり参考にならなかった：1名 (8.3%)
- まあまあ参考になった：2名 (16.7%)
- 全く参考にならなかった：2名 (16.7%)

II 授業に関する質問（この演習は、講義、実習、発表等から構成されている）

II-1 【今回の講義に関する質問】

II-1-1) 最も面白いと感じた講義とその理由

- 演習ガイダンス：該当者なし
- 課題研究の説明：該当者なし
- 酪農から、環境・SDGsについて考える：2名 (16.7%)
 - ・農学分野の与える環境負荷について考えるきっかけとなったため。
 - ・今私が学校で学んでいることと結びつけて考えることができたから。
- 酪農から、動物の福祉について考える：1名 (8.3%)
 - ・動物の福祉と権利が区別されていることを知ったから。
- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：7名 (58.3%)
 - ・解剖しながら丁寧に分かりやすい説明で理解しやすかった。
 - ・初めての解剖で楽しかったからです。
 - ・ニワトリには胃が2つあることを知れたから。
- 家畜の生命を支える大地の働きを探る：該当者なし
- 牛乳の試飲とバター作り：2名 (16.7%)
 - ・私は乳製品が好きで牛乳の種類やバターの作り方を知ることができ興味深かったから。

Ⅱ－１－２）最も理解しにくかった講義とその理由

- 演習ガイドンス：1名（8.3%）
 - ・実習をする前だったのでイメージがつきにくかった。
- 課題研究の説明：2名（16.7%）
 - ・講義より、課題そのものが難しかった。とても考えることができた。
 - ・発表形式の説明が十分でなかったから。
- 酪農から、環境・SDGsについて考える：4名（33.3%）
 - ・規模が大きいの、体感していないから。
 - ・化学物質が多くでてきたから。
 - ・エネルギーの循環の説明など専門的な内容もあったため。
- 酪農から、動物の福祉について考える：1名（8.3%）
 - ・具体的な内容や数字が多く、活かしにくい知識だったため。
- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：1名（8.3%）
 - ・生物選択(高校)ではなかったの、少し難しかった。
- 家畜の生命を支える大地の働きを探る：2名（16.7%）
 - ・理系の話だったため、理解するのに時間がかかったから。
 - ・講義だと理解しにくく、体験の際は分かりやすかった。
- 牛乳の試飲とバター作り：該当者なし
- 無回答（特になし）：1名（8.3%）

Ⅱ－２【今回の実習に関する質問】

Ⅱ－２－１）最も面白いと感じた管理作業とその理由

- 乳搾り体験：4名（33.3%）
 - ・牛特有の面白さがあった。
 - ・人生で一度はやってみたかったから。
 - ・牛のことも菌から守る必要があったり、搾乳機を付けるのが楽しかったからです。
- 乳牛への飼料給与他：1名（8.3%）
 - ・与える飼料にがついてくれて可愛かったから。
- 中小家畜への飼料給与他：6名（50.0%）
 - ・なぜ分けているのか、エサの種類とその理由など知れた。
 - ・中小家畜とのふれあいが印象に残った。
 - ・牛を間近で見て、成長毎に大きさの異なる牛を観察し、ヤギの赤ちゃんと触れ合えたから。
- 肉牛への飼料給与他：1名（8.3%）
 - ・牛と触れ合う機会が多かったから。

Ⅱ－２－２）最も理解しにくかった管理作業とその理由

- 乳搾り体験：2名（16.7%）
 - ・機械を使うのが少し手間取ったから。
 - ・牛の乳が出る仕組みも知りたいと考えた。
- 乳牛への飼料給与他：4名（33.3%）
 - ・飼料のバランスや量など考えられていて、難しかった。
 - ・飼料の説明で、多くの種類があり、少し難しかった。
 - ・機械音がうるさく、先生の言葉が聞こえにくかったから。
- 中小家畜への飼料給与他：3名（25.0%）
 - ・いる時間が短かった。
 - ・ヤギやひつじが色々いたので一種一種理解することができなかった。説明もあまり深くまでなかった。
 - ・今回は飼料給与ができなかったから。
- 肉牛への飼料給与他：2名（16.7%）
 - ・飼料別の効能や、濃厚飼料の原料も知りたかったため。
- 無回答（特になし）：1名（8.3%）

Ⅱ－２－３）最も面白いと感じた実習とその理由

- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：8名（66.7%）
 - ・生き物の体の中をすべて隅々まで見たのは初めてで、卵ができていて、おもしろかった。
 - ・ニワトリの体の肉の部位や構造、仕組みを知り、知らないことばかりだったので新鮮で面白かった。
 - ・ニワトリの生活する上での特性を学ぶことができた。
- 動物の命を実感する 牛の体温と心拍数測定：1名（8.3%）
 - ・心臓の位置や胃の音などおもしろかった。体温も人間より高くて驚いた。
- 牛乳の試飲とバター作り：3名（25.0%）
 - ・どの牛乳でも美味しかったし、牛乳が好きだから。
 - ・クイズがあったから。
 - ・バター作りは大変だったが、牛乳の試飲がクイズ形式で面白かった。

Ⅱ－２－４）最も理解しにくかった実習とその理由

- 家畜（ニワトリ）の体の仕組みを見る：1名（8.3%）
 - ・興味深かったけど、もともとの知識が少ないので、少し大変だった。
- 動物の命を実感する 牛の体温と心拍数測定：11名（91.7%）
 - ・1回目の心拍数測定で人間と牛での違いが上手くわからなかった。
 - ・自分の技術や牛の状態もあるが、音が聞こえていなかったから。
 - ・人数もいるし時間制限もあるので、1人長い時間かけられなかったから。外では説明が聞き取れなかった。
- 牛乳の試飲とバター作り：該当者なし

Ⅱ－3【今回の発表会および発表準備に関する質問】

Ⅱ－3－1) 発表の準備は・・・

- とてもできた：3名 (25.0%)
- まあまあできた：4名 (33.3%)
- 普通：1名 (8.3%)
- あまりできなかった：3名 (25.0%)
- 全くできなかった：1名 (8.3%)

Ⅱ－3－2) 他の人の発表内容と比較して自分の発表は・・・

- とてもできた：1名 (8.3%)
- まあまあできた：4名 (33.3%)
- 普通：3名 (25.0%)
- あまりできなかった：3名 (25.0%)
- 全くできなかった：1名 (8.3%)

Ⅱ－3－3) 発表のための基礎的な手法が・・・

- とても身についた：2名 (16.7%)
- まあまあ身についた：7名 (58.3%)
- あまり身につかなかった：1名 (8.3%)
- 全く身につかなかった：1名 (8.3%)

Ⅱ－3－4) 今回の発表経験（準備を含む）は今後の学習に・・・

- とても役立つ：7名 (58.3%)
- まあまあ役立つ：2名 (16.7%)
- あまり役立たない：該当者なし
- 全く役立たない：2名 (16.7%)

Ⅱ－4) 本演習の良い点と改善点

<良い点>

- ・実際の農場で体験でき、広大ならではの機械やその理由が詳しく知ることができて、とてもおもしろかった。学べば学ぶほど、興味が湧いた。今まで農業についてばかり勉強してきたので、酪農について学べたのはとても貴重な体験だった。先生方やTAの方々、農場で働いている技術者の方々も、私たちに説明しつつ、質問に答えて下さり、楽しく学ぶことができた。フンや尿の匂いも特に（思っていた以上に）気にならなかった。ケガすることなく無事終わった。
- ・分野に精通している人達に貴重な話を聴くことができた。実習ができて、動物と触れ合えたこと。他大学の生徒と交流できたこと。食べ物を頂く＝沢山の人・動物の労力があることを学んだ。
- ・動物に触れる機会が多く、直接命を感じることができた。
- ・実習が多く動物とたくさん触れ合うことができる。長靴やつなぎなど実習に必要な物を用意してくれる。
- ・ニワトリの解剖を実際に見ることで普段自分たちが食べている肉はどこの部分で、卵はどうやってできているのか知れて良かった。
- ・全体通じて満足で、構成もすごく良かった。お茶や塩タブレットを用意して頂けたのはありがたかった。
- ・実習が多く、自分で体感するため座学より理解しやすかった。

- ・学習の順序がとても分かりやすく良いと思いました。コンビニ行って来てありがたかったです。
- ・学生会館がホテルみたいな備え付けがとても良かった。

<改善点>

- ・もうちょっと動物と触れ合える時間が欲しいなと思った。
- ・実習、ニワトリの解剖など動物や飼料の匂いが強い時は、マスク着用の勧めを促すアナウンスがあっても良いと思う。(「任意ですけど～」みたいな)
- ・申込前にもっと詳しくスケジュールを書いてほしい。(解剖がある、フンで汚れる可能性ありなど)
- ・着替えや休憩時間などがもう少しあるとよい。
- ・休憩時間や着替えの時間などが長めに取られていて、もう少し短くても良いのかなと思いました。
- ・学生会館に泊まるという体験も楽しかったので今は満足しているが、宿泊場所が確定した時点で、改めて宿泊希望者を集計して欲しかった。朝食がやや少なかった。いつもより体を動かしたこともあり、物足りなく感じたが、残っていた人もいたので、あくまで自分の感覚でしかないかもしれない。
- ・朝食の量が多かった。私的にはパンくらいで十分だった。朝には牛乳が飲みたかった。
- ・3日間の夕食を全て違う学食にしてもらえるとよかった。
- ・外出禁止であることがとても不便でした。

Ⅱ－５）本演習で理解できなかった点

- ・生物は中学以来だったので、鶏の器官の機能は、よくわかっていないままのものもあった。わからない用語には解説があったので、困ってはいない。
- ・動物の5つの自由 2. 不快からの自由と5. 恐怖と抑圧からの自由の違い。放牧した動物はどうやって元の場所に帰るのか。
- ・中小家畜の情報やマメ知識についての説明が少し少なかった。
- ・サイレージ。

Ⅱ－６）本演習についての感想

- ・参加して良かった。生生の友達から農場の話は聞いていて、ずっと行ってみたいかったため、今回の授業を通して入ることができて良かった。
- ・本当に楽しく学ぶことができました。もう一回大学受験したいくらいです。皆さん優しく、質問にも嫌な顔せず丁寧に答えて下さり、ありがとうございました。またご縁があれば、よろしく願いいたします。
- ・島根県立大学では受講生は私しかいなかったが、後輩に島根飛び出して実習できるよー！と勧めたいです。3泊4日でTAの方達と先生方には大変お世話になりました。
- ・とても満足です。同じ第一次産業を学ぶ者として共通点が多く見られ、生命にも農業関係者にも感謝を忘れずに生活していきたいと思いました。4日間ありがとうございました。

- 牛やヤギがあたりまえだけど、あったかくて好き。生を実感した。
- 全く違う分野を専攻していて知識がないものにも優しくわかりやすく説明・応答して下さって本当に感謝しかないです。ありがとうございました。とてもいい経験でした。
- 3泊4日とても充実した時間になった。この学びは一生の財産になると思った。講義が分かりやすくて、理解できた。先生やTAさんが優しく接してくれて、質問の返答も丁寧でありがたかった。
- 牛や他の動物について知ることができたり触れ合ったりした一方で、酪農に課題や命の大切さを学ぶことができ、非常に良い経験になりました。3日間、講義や実習をしていただいた先生方、準備や講義・実習のサポートをしてくださったTAの方々、本当にありがとうございました。
- 知識が深まり、今後に活用できるものや専門的なことなどを学ぶことができた。動物の権利をという考え方をもつ人がこの世にいることを学び、理解を深め、ベジタリアンの人たちとも交流を深めていきたいと考えた。
- 実際に農場に来て触れ合っただけで学ぶことができると良かったです。